

小堤城山城

- 区分 / 山城
- 築城 / 室町時代
- 城主 / 永原氏(?)
- 遺構状態 / ★★★
- 取材日 / 2012年2月21日

野洲市

佐々木六角氏の家臣
永原氏築いた詰城か!?

一般に、城郭に石垣が多用されるようになったのは、16世紀後半の安土城築城以降といわれているが、それ以前に築城された佐々木六角氏の観音寺城がすでに大規模な石垣をめぐらせていたことは前号で紹介したところ。近江守護職・六角氏の強い勢力下にあった周辺の家臣の城にもそれが顕著に表れているようだ。

野洲市と蒲生郡竜王町にまたがる鏡山山系のひとつ、城山の尾根上にある小堤城山城は、六角氏の有力家臣・永原氏が15世紀末に築いたと考えられている。もともとは六角氏の家臣・馬淵氏の被官だったが、その後独立して勢力を伸ばし、16世紀前半の頃から六角氏と主従関係を結ぶようになったという。

小堤城山城は、近江南部では最大規模の中世城郭で、山頂部の郭(曲輪)は



堀切に沿って連なる見事な石垣の遺構。郭群の東端に位置する。



① 城山山頂

希望が丘文化公園から城山直登ルートを進むと山頂直下の急斜面に2カ所の石垣が確認できた。標高286mの城山の山頂からはほぼ360度の眺望が楽しめる。南に秀麗な三上山が間近に迫り、東には鏡山へ連なる山稜が美しい。この山頂部の尾根には段状に小さな郭が連なっている。



(左) 城山山頂の郭はその地形上広くはないが、展望がよく見晴らしは抜群だ。(上) 山頂南側の急斜面にも石垣が残っている。

② 主郭周辺の堀切と石垣



(上) 東端の郭にある堀切と石垣。城内で一番の見どころだろう。(右) 城郭群の案内標識。道迷い防止用の分岐点番号を表示した杭も立てられている。

主郭部のまわりの尾根上に大小の郭がいくつも配置されていて、そのいくつかは大規模な堀切で区切られている。堀切を通過して郭群を散策することになるが、郭を囲むように積まれた石垣には大きな自然石が多く使用されていて、粗削りながらも初期の城郭のダイナミズムを感じさせる。



③ 主郭部と虎口

尾根の郭群をめぐりながら、大きな堀切を越えると谷部の主郭部に出る。山城の多くはその最高部に主郭を構えているものだが、こういう縄張はちよつと珍しいのでは? この西側が虎口だ。主郭直下で登城道が鍵状に折れ曲がっている。虎口につながる急坂にも苔むした石垣が確認できた。



(上) 主郭部にある説明板と案内図。案内図を確認しながら散策するといえよう。(右) 主郭の虎口に続く急坂。右手に石垣が残っている。



〈アクセス〉

● JR野洲駅から「村田製作所」または「花緑公園」行きバスで「希望が丘西ゲート」下車。登山口まで約20分、登山口から山頂まで約20分。

〈観光に関するお問い合わせ〉

■ 野洲市観光物産協会 TEL.077-587-3710

北稜ハイキングコースと
古城山の岩倉城の遺構

城山山頂から鏡山へ縦走する北稜ハイキングコースがある。城山から東側の急斜面を下り、起伏の豊かな尾根道を東へ進むと「古城山(ふるしろやま)と岩倉城・桜本坊と桜本池」の説明板がある。古城山のピークは北稜コースの少し北にあり、北側斜面に岩倉城(別名・古城山城)と呼ばれる城跡がある。佐々木六角氏の家臣・馬淵氏が築いた城郭で、小堤城山城より歴史が古いものと思われる。木立の中に郭跡や石垣の一部が残っていて、山頂付近には「桜本坊」という寺(明治以降は神社となり「桜本社」と称する)もあったようだ。



北稜コースにある「古城山と岩倉城・桜本坊と桜本池」の説明板。